

2019年度 第2四半期 決算説明会

- 1 2019年度 第2四半期（上半期）決算
 - 2 2019年度 業績予想
 - 3 中期計画進捗状況
 - 4 株主還元
- (参考資料)

2019年11月14日
タツタ電線株式会社

本資料における将来の予測等に関する各記述は、
当社が現時点で入手可能な情報に基づく判断や仮定によるものであり、
リスク及び不確実性が含まれております。
したがって、実際の業績等は、予想数値とは異なる結果となる可能性があります。

本資料に関するお問い合わせ先
タツタ電線株式会社
経営企画部
TEL:06-6721-3011 FAX:06-6726-2300
<http://www.tatsuta.co.jp/>

1 2019年度 第2四半期（上半期）決算

1-1 上半期決算および年度予想（要点）

（上半期決算）

売上高： 29,127百万円（前年同期比▲2.9%）
 営業利益： 2,048百万円（前年同期比▲23.0%）

電線・ケーブル事業

売上高： 18,131百万円（前年同期比▲0.6%）
 営業利益： 180百万円（前年同期比▲36.3%）

- ◆ 機器用電線は貿易摩擦影響による販売低迷を主因に減収減益。
- ◆ インフラ向け電線は需要・販売堅調（前年同期比+5%）のもと、増収増益。

電子材料事業

売上高： 10,046百万円（前年同期比▲8.3%）
 営業利益： 2,134百万円（前年同期比▲21.9%）

- ◆ 携帯端末向け需要回復の遅れにより機能性フィルムの販売量が減少（前年同期比▲11%）し、減収減益。

その他

売上高： 963百万円（前年同期比+17.3%）
 営業利益： 68百万円（前年同期は0百万円の損失）

- ◆ 機器システム製品、光部品、環境分析の各事業とも増収増益。

（年度予想）

売上高： 57,500百万円（前期比▲0.9%）
 営業利益： 3,550百万円（前期比▲12.7%）

- ◆ 2019年7月23日の決算発表時に公表した業績予想（トータル売上高、営業利益等）から変更無し

1-2 2019年度上半期主要条件

項目	2018年度 上期	2019年度 上期	備考
為替（円／USD）	110	109	
電気銅建値	760千円/ t	692千円/ t	
電線販売量伸び率	+11%	+5%	インフラ向け、対前年同期比
機器用電線売上	36.7億円	27.9億円	電線・ケーブルセグメント内数
フィルム販売量伸び率	▲1%	▲11%	対前年同期比

注1) 電気銅建値は電線・ケーブル製品売上高、原料代に影響

注2) インフラ用途電線販売は国内のみ。フィルム販売は大半円建て（為替短期的変動影響僅少）。

1-3 （対前年同期）2019年度上半期決算

（単位：百万円）

	2018年度 上期	2019年度 上期	前年同期 差異	備考
売上高	29,989	29,127	▲862	
営業利益	2,661	2,048	▲612	
（営業利益率）	（8.9%）	（7.0%）	（▲1.9%）	
経常利益	2,698	2,067	▲630	
特別損益	▲22	59	+81	2019上：昨年台風災害 関連保険収入
当期純利益	1,988	1,429	▲559	
一株当たり純利益（円）	32.19	23.13	▲9.06	
一株当たり配当（円）	8.00	9.00	+1.00	中計レベルで増配

1-4 (対前年同期) セグメント別売上高および営業利益

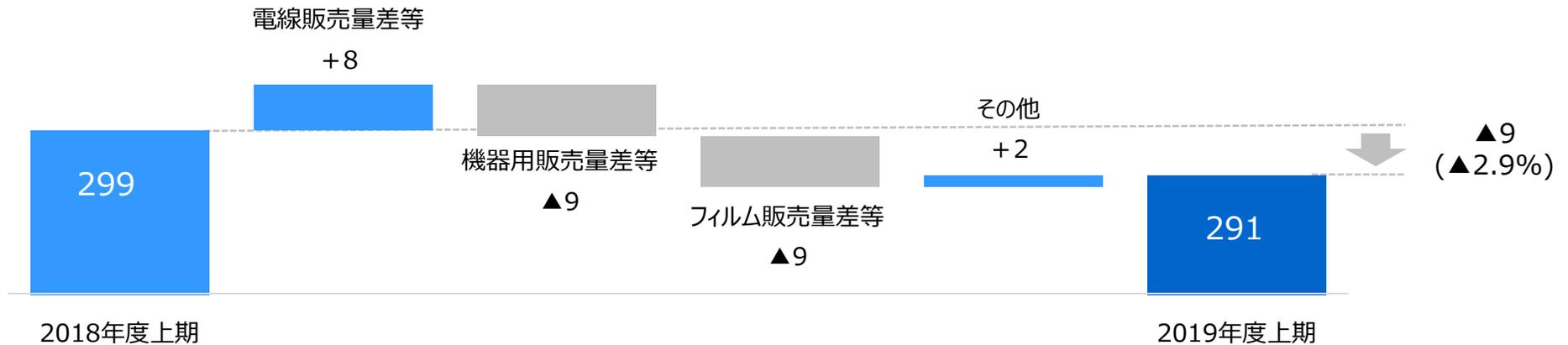
(単位：百万円)

		2018年度 上期	2019年度 上期	前年同期 差異
	電線・ケーブル	18,237	18,131	▲105
	電子材料	10,950	10,046	▲904
	その他	802	949	+147
	売上高	29,989	29,127	▲862
	電線・ケーブル	283	180	▲102
	電子材料	2,732	2,134	▲598
	その他	▲352	▲265	+87
	営業利益	2,661	2,048	▲612

1-5 （対前年同期）上半期売上高、営業利益増減要因

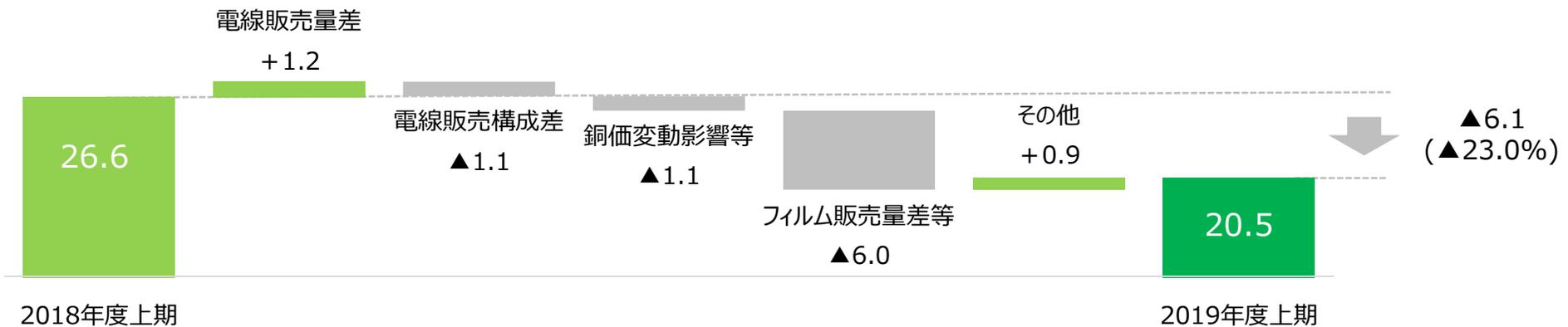
売上高

(単位：億円)



営業利益

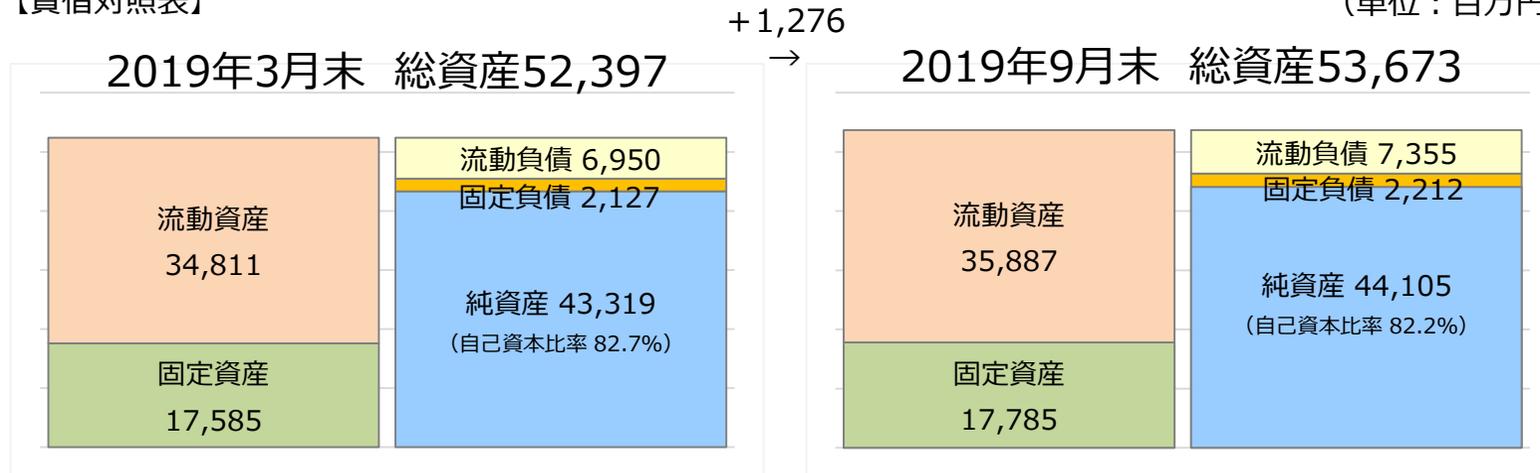
(単位：億円)



1-6 貸借対照表、キャッシュフロー計算書

【貸借対照表】

(単位：百万円)



【キャッシュフロー計算書】

(単位：百万円)

	2019年度 上期	備考
営業CF	4,377	
税金等調整前四半期純利益	2,127	
その他	2,250	売上債権減（前期末休日影響含み）等
投資CF	▲4,061	
設備投資	▲1,147	
その他	▲2,914	短期貸付金増加等
財務CF	▲486	配当支出（▲494）等
CF合計	▲169	
（減価償却）	（868）	

2 2019年度 業績予想

2-1 2019年度業績予想主要条件

項目	2018年度 実績			2019年度 前回業績予想			2019年度 今回業績予想			備考
	上期	下期	年度	上期 予想	下期 予想	年度 予想	上期 実績	下期 予想	年度 予想	
為替 (円/USD)	110	112	111	109	110	109	109	110	109	2019年度中期計画：115
電気銅建値 (千円/t)	760	733	747	700	750	725	692	700	696	2019年度中期計画：650
電線販売量 伸び率	+11%	+13%	+12%	+6%	+4%	+5%	+5%	+4%	+5%	インフラ向け、対前年同期比 2019年度今回予想対中期計画：+11%
機器用電線売上	36.7億円	33.2億円	69.8億円	28.0億円	34.9億円	62.9億円	27.9億円	35.7億円	63.5億円	電線・ケーブルセグメント内数 2019年度中期計画：93.5億円
フィルム販売量 伸び率	▲1%	▲18%	▲9%	▲17%	+1%	▲10%	▲11%	▲3%	▲8%	対前年同期比 2019年度今回予想対中期計画：▲5%

注1) 電気銅建値は電線・ケーブル製品売上高、原料代に影響

注2) インフラ用途電線販売は国内のみ。フィルム販売は大半円建て（為替短期的変動影響僅少）。

2-2 (対前年同期) 2019年度業績予想

(単位：百万円)

	2018年度実績			2019年度予想			年度差異
	上期	下期	年度	上期実績	下期予想	年度予想	
売上高	29,989	28,005	57,995	29,127	28,372	57,500	▲495
(営業利益率)	(8.9%)	(5.0%)	(7.0%)	(7.0%)	(5.3%)	(6.2%)	-
営業利益	2,661	1,405	4,067	2,048	1,501	3,550	▲517
(ROA)	-	-	(7.9%)	-	-	(6.6%)	-
経常利益	2,698	1,388	4,087	2,067	1,482	3,550	▲537
特別損益	▲22	▲222	▲245	59	-	59	+303
(ROE)	建物解体費、 台風災害損失等	-	(6.9%)	台風災害保険収入	-	(5.7%)	-
当期純利益	1,988	937	2,926	1,429	1,070	2,500	▲426

2-3 (対前年同期) セグメント別売上高および営業利益

(単位：百万円)

	2018年度実績			2019年度予想			年度差異
	上期	下期	年度	上期実績	下期予想	年度予想	
電線・ケーブル	18,237	18,854	37,092	18,131	18,968	37,100	+7
電子材料	10,950	8,123	19,073	10,046	8,353	18,400	▲673
その他	802	1,028	1,829	949	1,050	2,000	+170
売上高	29,989	28,005	57,995	29,127	28,372	57,500	▲495
電線・ケーブル	283	318	601	180	* ^① 619	800	+198
電子材料	2,732	1,326	4,058	2,134	* ^② 1,165	3,300	▲758
その他	▲352	▲238	▲592	▲265	▲285	▲550	+41
営業利益	2,661	1,405	4,067	2,048	1,501	3,550	▲517

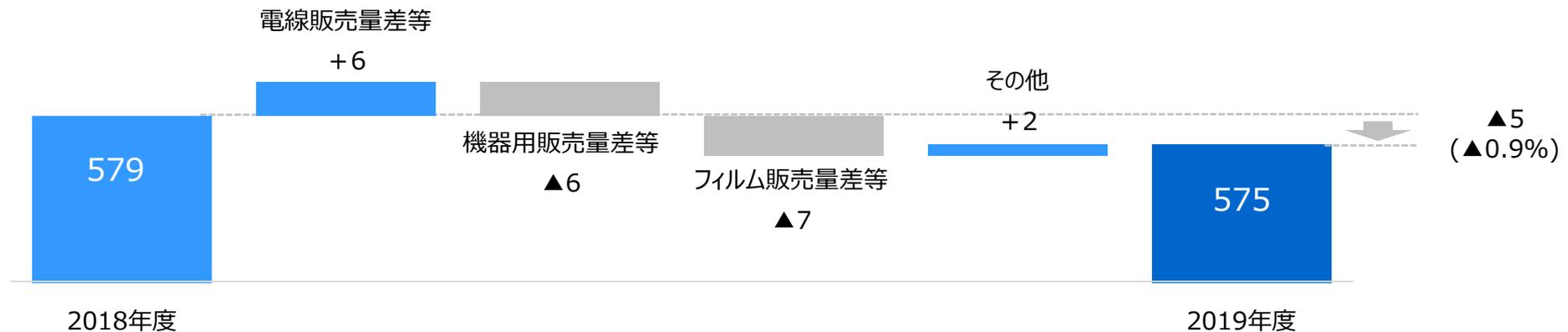
* 対上期主要損益増減要因

- ① インフラ電線販売量+7%、機器用電線販売一部回復（売上+7.8億）、上期発生銅価変動影響（損失）減
 ② フィルム販売量減（不需要期および一部上期への販売前倒し影響）

2-4 (対前年同期) 年度売上高、営業利益増減要因

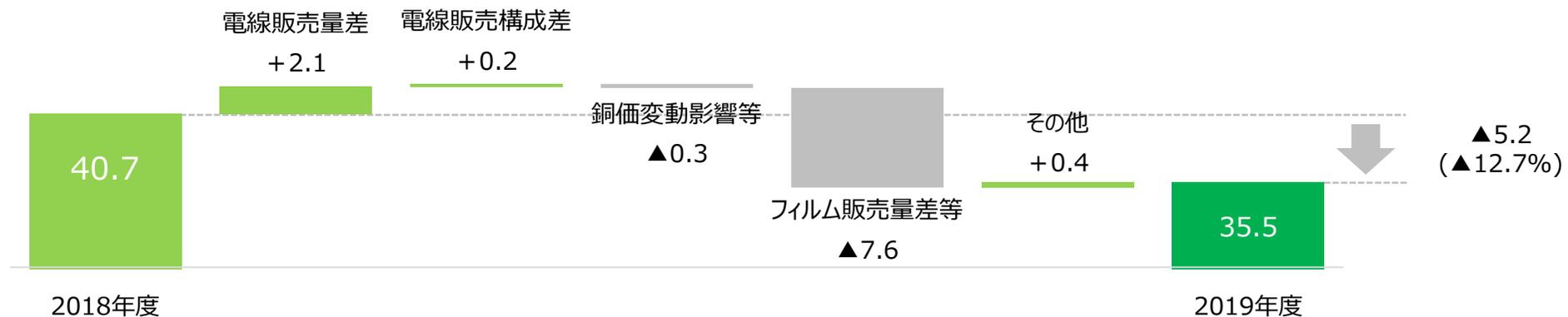
売上高

(単位：億円)



営業利益

(単位：億円)



2-5 (対前回業績予想)セグメント別売上高および営業利益

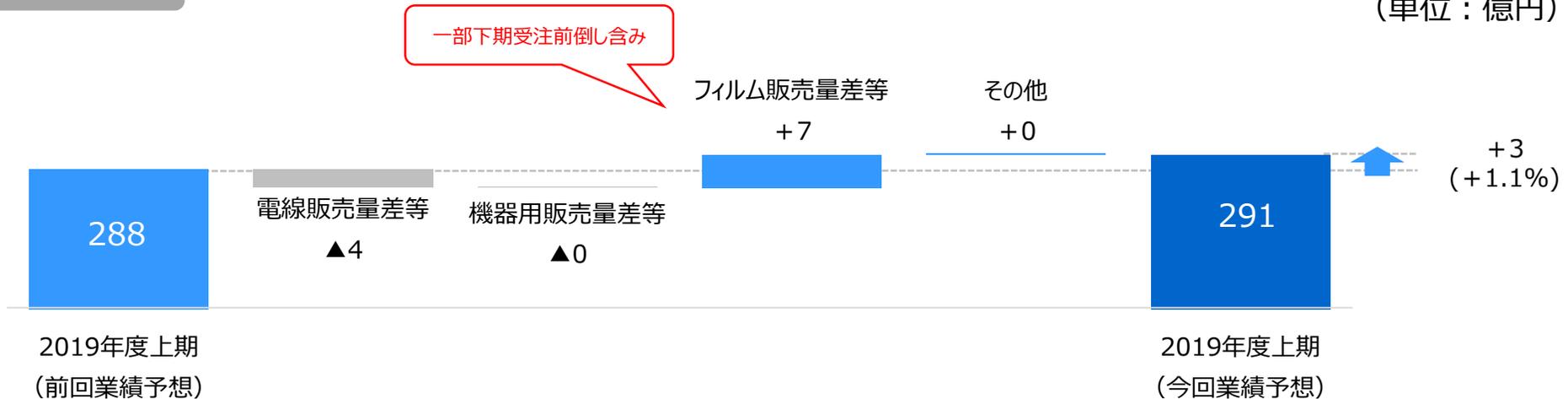
(単位：百万円)

	前回業績予想			今回業績予想			年度差異
	上期予想	下期予想	年度予想	上期実績	下期予想	年度予想	
電線・ケーブル	18,500	19,000	37,500	18,131	18,968	37,100	▲400
電子材料	9,300	8,700	18,000	10,046	8,353	18,400	+400
その他	1,000	1,000	2,000	949	1,050	2,000	-
売上高	28,800	28,700	57,500	29,127	28,372	57,500	-
電線・ケーブル	350	700	1,050	180	619	800	▲250
電子材料	1,650	1,400	3,050	2,134	1,165	3,300	+250
その他	▲300	▲250	▲550	▲265	▲285	▲550	-
営業利益	1,700	1,850	3,550	2,048	1,501	3,550	-

2-6 (対前回業績予想)上半期売上高、営業利益増減要因

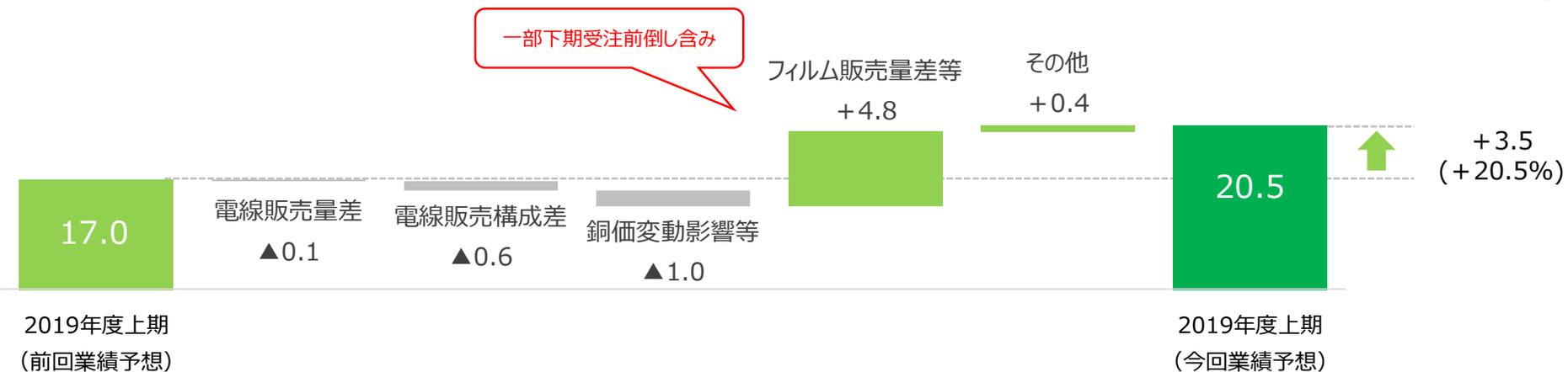
売上高

(単位：億円)



営業利益

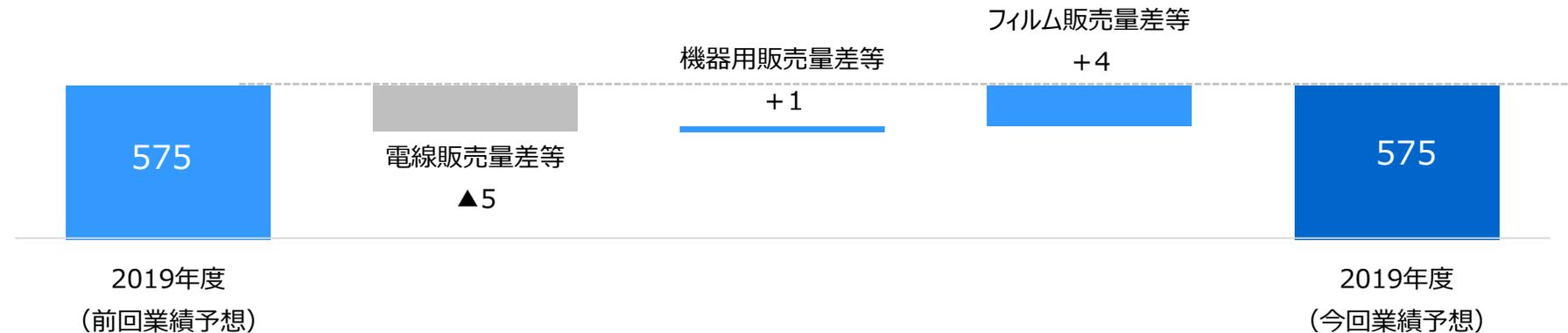
(単位：億円)



2-7 (対前回業績予想)年度売上高、営業利益増減要因

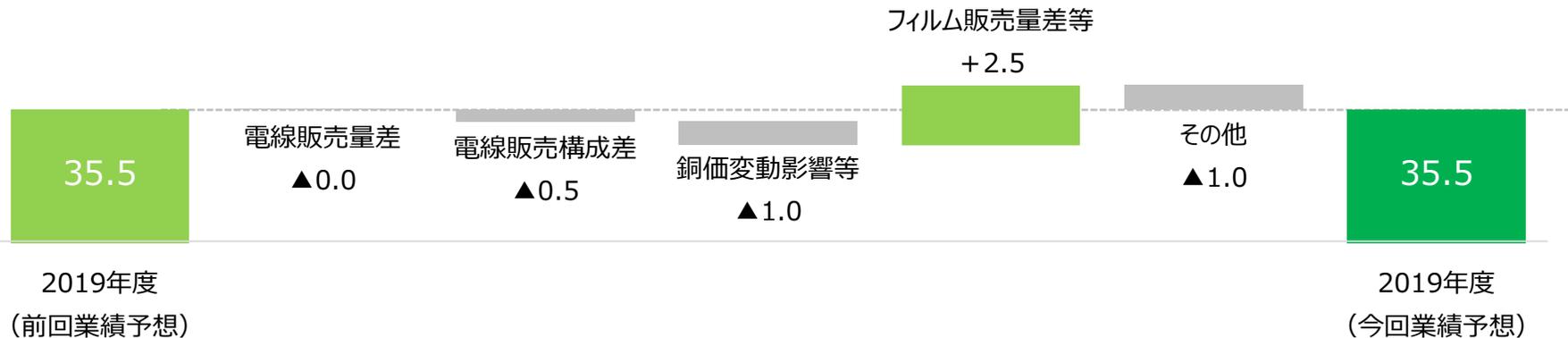
売上高

(単位：億円)



営業利益

(単位：億円)



2-8 フリーキャッシュフロー、設備投資

(単位：百万円)

	2019上期 実績	2019年度 予想	2019年度 中期計画
営業キャッシュフロー	4,377	3,900	5,200
設備投資（支出）	▲1,147	▲2,551	▲3,800
フリーキャッシュフロー	3,230	1,349	1,400
（参考；減価償却）	(868)	(1,962)	(2,000)

注) 全社留保枠（2019年度：25億円）関連支出含まず

(2019年度 主要投資項目)

- 電線各種効率化投資等 : 4 億円
- フィルム高機能化、基盤強化対応等 : 10 億円
- 新規事業開発投資（成長追求事業） : 2 億円
- 木津川地区環境整備対応 : 4 億円

3 中期計画進捗状況

3-1 2025長期ビジョン（2017.5公表）の概要

- 【定性的目標】 電線・電子材料関連のフロンティアを開拓し、ニッチトップのサプライヤーとなり、独創的な先端部品・素材を供給する。
- 【定量的目標】 高い収益率を維持しつつ、現状の1桁上の規模（売上高1,000億円、営業利益100億円）を併せ持つ。

【事業戦略】

成長追求	ペースト、医療機器関連部材
中長期育成	機器用電線（国外）
利益追求	通信電線、機器用電線（国内） 機能性フィルム、FW、シスフォト、環境分析

【2025に向けたロードマップ】

期 間	第1次中計期間 (17-19)	第2次中計期間 (20-22)	第3次中計期間 (23-25)
課題	基盤整備期間	新製品量産化期間	新製品増産収益貢献期間
投融資枠	* 3年間 210億円 (3年間累計 210億円)	3年間 240億円 (6年間累計 450億円)	3年間 280億円 (9年間累計 730億円)
目標 営業利益	19年度 50億円	22年度 70億円	25年度 100億円

(* 留保枠3カ年合計120億円を含む)

3-2 2017-19年度中期計画進捗状況

(単位：百万円)

	2017 中期計画	2017 実績	2018 中期計画	2018 実績	2019 中期計画	2019 予想
売上高	52,500	55,194	55,000	57,995	58,000	57,500
(営業利益率)	(8.4%)	(9.1%)	(8.5%)	(7.0%)	(9.3%)	(6.2%)
営業利益	4,400	5,047	4,700	4,067	5,400	3,550
(ROA)	(8.9%)	(10.6%)	(9.0%)	(7.9%)	(9.6%)	(6.6%)
経常利益	4,300	5,219	4,600	4,087	5,200	3,550
(ROE)	(7.7%)	(9.2%)	(7.9%)	(6.9%)	(8.3%)	(5.7%)
当期純利益	3,000	3,677	3,200	2,926	3,600	2,500

3-3 2017-19年度中期計画進捗状況（セグメント別）

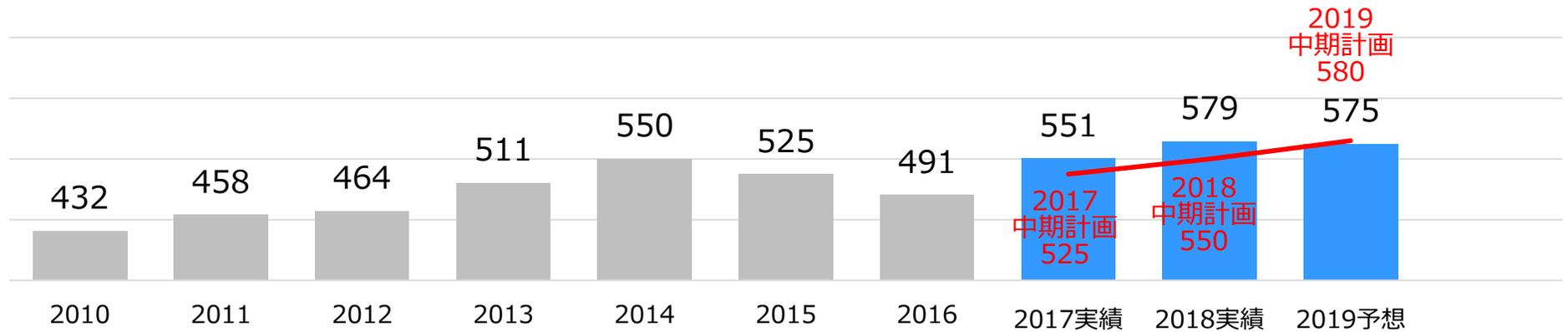
（単位：百万円）

		2017 中期計画	2017 実績	2018 中期計画	2018 実績	2019 中期計画	2019 予想
	電線・ケーブル	32,000	32,621	33,500	37,092	35,000	37,100
	電子材料	18,600	20,902	19,300	19,073	20,300	18,400
	その他	1,900	1,671	2,200	1,829	2,700	2,000
売上高		52,500	55,194	55,000	57,995	58,000	57,500
	電線・ケーブル	1,200	949	1,500	601	1,800	800
	電子材料	3,700	4,808	3,700	4,058	3,800	3,300
	その他	▲500	▲710	▲500	▲592	▲200	▲550
営業利益		4,400	5,047	4,700	4,067	5,400	3,550
当期利益		3,000	3,677	3,200	2,926	3,600	2,500

3-4 2017-19年度中期計画進捗状況

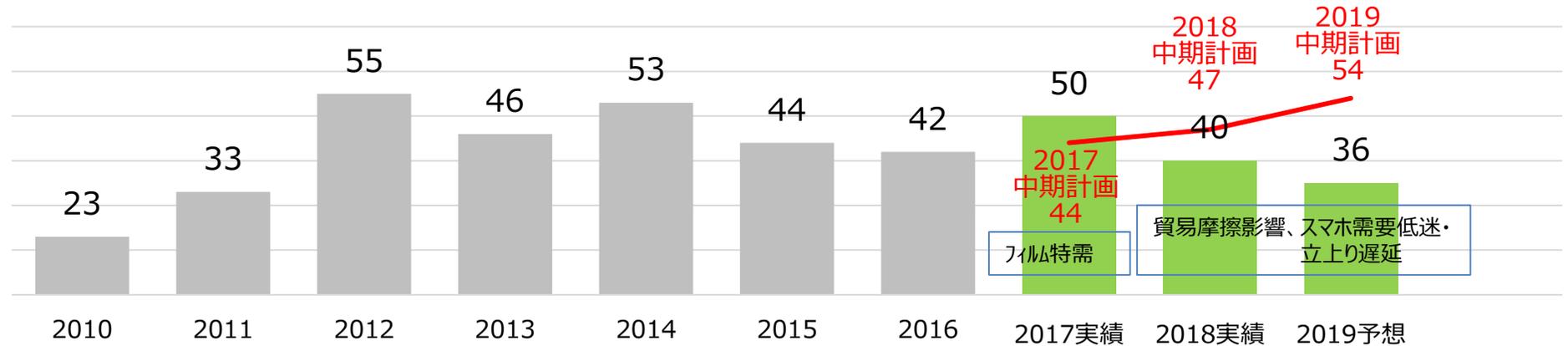
売上高

(単位：億円)



営業利益

(単位：億円)



3-5 (対中期計画) 年度売上高、営業利益増減要因

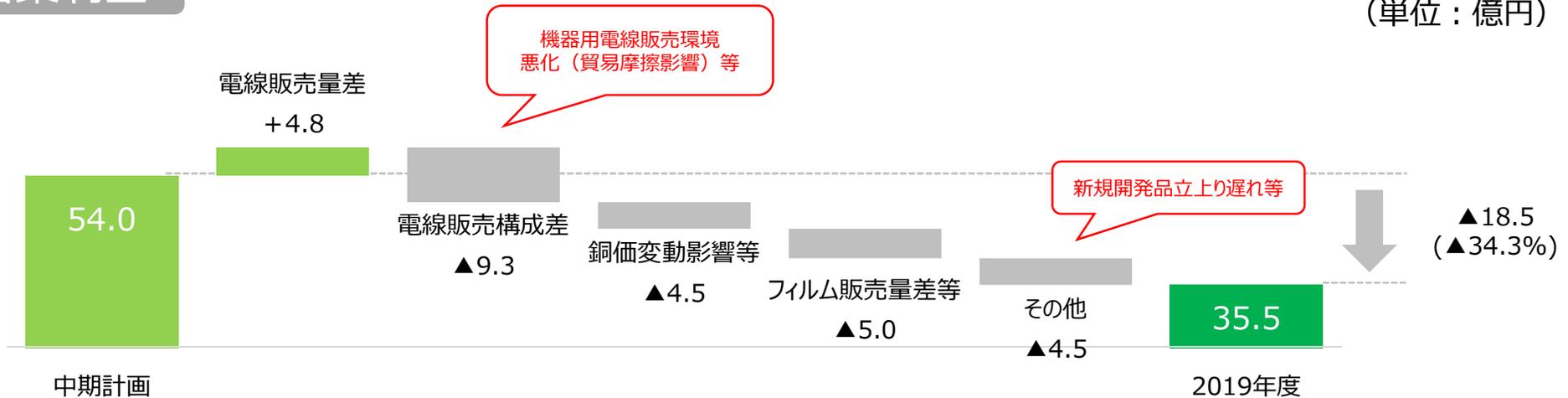
売上高

(単位：億円)



営業利益

(単位：億円)



3-6 2017-19年度中期計画主要課題進捗状況

【通信電線事業】

利益追求事業	① インフラ向け電線事業の効率化継続および一層の販売構成改善 ⇒ 設備投資を含む各種基盤強化および直需製品の販売増等実現	○
	② 機器用電線事業（国内）収益基盤強化、シナジー追求 ⇒ 事業環境悪化（貿易摩擦影響等）により未達成	×
中長期育成事業	① 海外機器用電線事業の基盤確立および本格販売立上げ ⇒ 事業環境悪化（同上）のもと本格販売伸長を達成できず	×

【電子材料事業】

利益追求事業	① フィルム事業のシェア維持と収益性確保 ⇒ 営業・技術対応の強化等により高シェアを維持・確保	○
	② ファインワイヤ事業のグローバル化と国内市場での拡販 ⇒ 事業環境悪化（半導体市況低迷）はあるが将来に向けた新商品開発進展	△

【その他事業、新規事業開発等】

利益追求事業	① 機器システム製品、光部品、環境分析事業の収益維持・拡大 ⇒ 各事業とも収益底上げ進展	○
成長追求事業	① ペースト製品新規用途のデファクトスタンダード化、周辺用途への採用拡大 ② 医療機器部品・材料事業の製品ラインナップ拡大および販売立上げ ⇒ （①、②とも）開発活動は予定通り進捗するが本格収益貢献開始に至らず	△ △

4 株主還元

4-1 配当

【2018年度年間配当金】

○ 16円/株・年間（中間8円、期末8円）

→ 対前年+1円増配

【2019年度年間配当金】

○ 18円/株・年間（中間9円、期末9円）

→ 対前年+2円増配予定

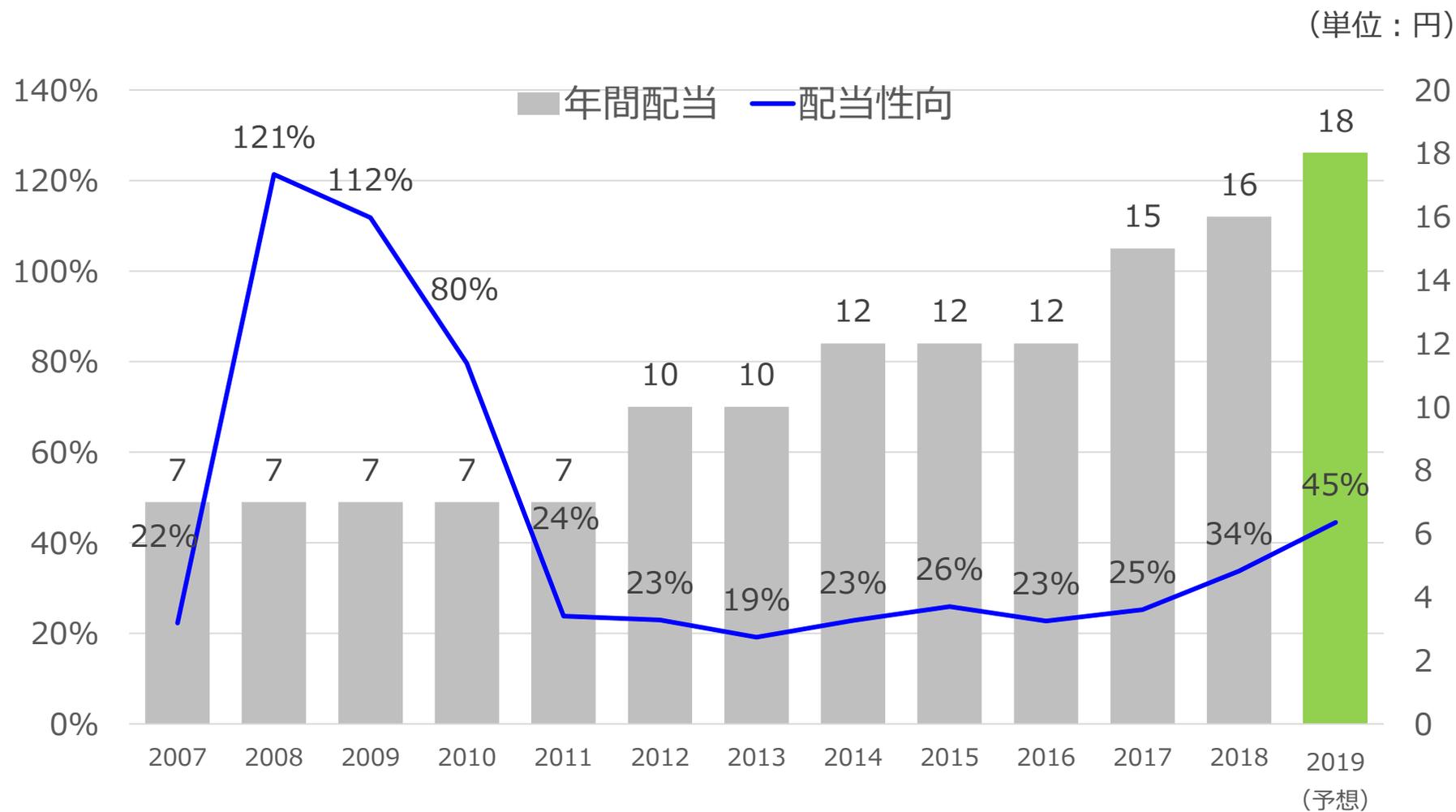
→ 「当社グループの提供する製品・サービスに対する需要はIoT化、AI化の進展に伴い高度化しつつ増大する」との見方に変化なし。安定配当側面重視。

当社配当に関わる基本方針（参考）

配当性向30%を目安としつつ、安定的な配当を継続することを基本とし、各年度の剰余金の配当等の決定は、業績の動向、設備投資の見通し等を総合的に勘案したうえで決定することを基本方針とする。

4-2 配当推移

【配当推移】



(参考資料)

(参考) 業績推移

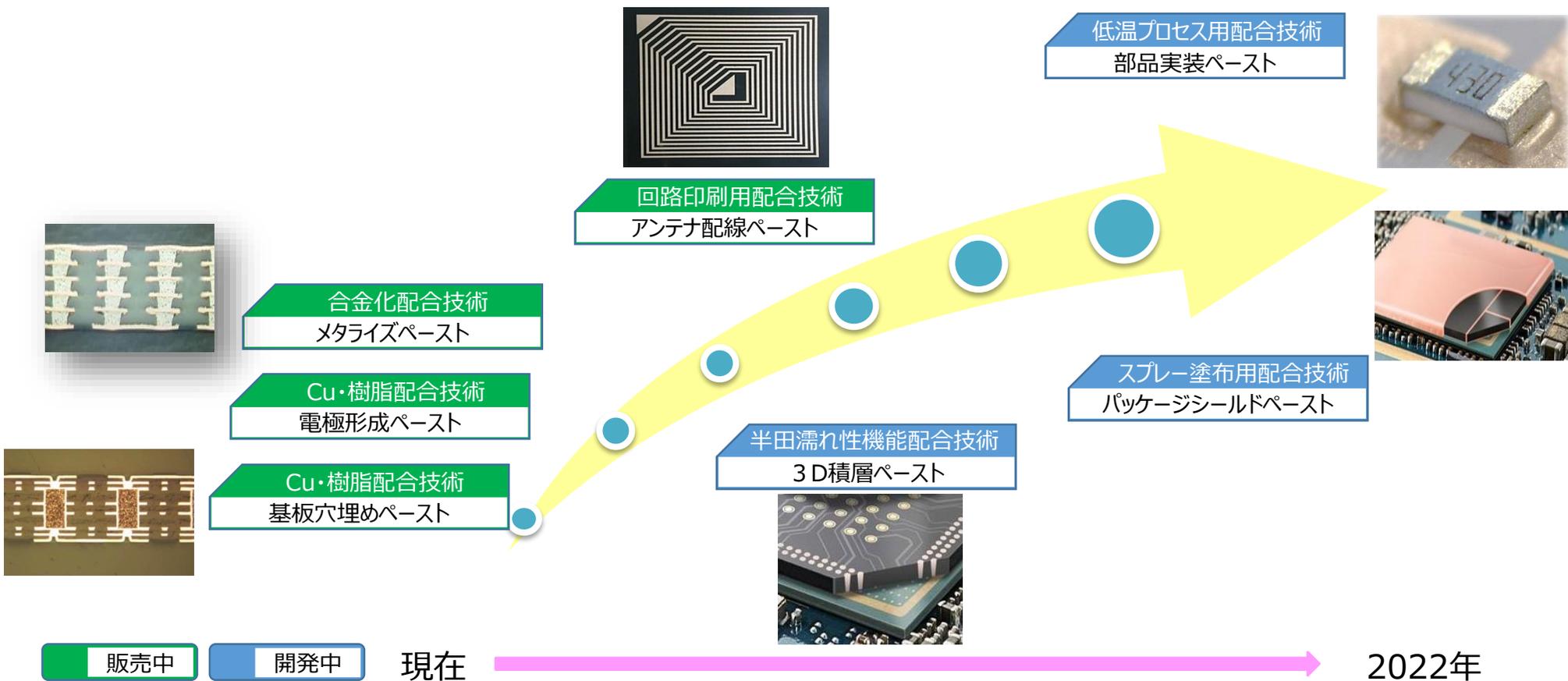
【売上高・営業利益推移】

(億円)	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019 (予想)
売上高	363	489	508	444	354	432	458	464	511	550	525	491	551	579	575
営業利益	15	28	23	3	8	23	33	55	46	53	44	42	50	40	36

【財務指標等推移】

	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019 (予想)
総資産 (億円)	386	421	446	446	471	514	523	545
自己資本 (億円)	295	315	347	360	381	414	433	447
売上高 (億円)	464	511	550	525	491	551	579	575
経常利益 (億円)	58	48	54	45	43	52	40	36
当期利益 (億円)	27	33	33	29	33	36	29	25
ROE (%)	9.8	10.9	10.1	8.3	9.0	9.2	6.9	5.7
ROA (%)	16.1	12.0	12.6	10.2	9.5	10.6	7.9	6.6
経常/売上 (%)	12.6	9.5	9.9	8.7	8.9	9.5	7.0	6.2

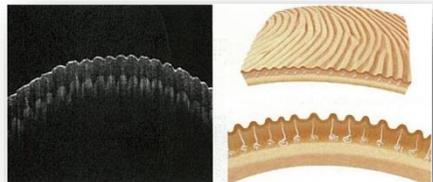
(参考) 導電性金属ペースト ロードマップ



* 新製品は海外の主要な展示会でも紹介を行い、世界各国の大手顧客での評価が進展
一部の新製品が量産採用

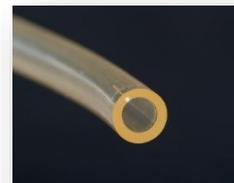
(参考) 医療機器部品・材料 ロードマップ

光による断層観察技術 (OCT※)



※ Optical Coherence Tomography

複合チューブ(光ファイバ内蔵)



複合チューブ(電線内蔵)



射出成型

カニューレ

配合・薄膜化技術

医療用高性能フィルム製品

押出成型・極細線技術

複合チューブ

光ファイバ加工技術

OCT光モジュール

極細線接合技術

圧力センサ付きケーブル

端末加工技術

コネクタ付き医療用ケーブル

押出成型技術

医療用ケーブル

液体検知センサ技術

点滴カウンタ

液体検知センサ・配合技術

人工透析用漏液抜針センサー

液体検知センサ・配合技術

高性能漏液検知センサー

新規接合成型技術

高性能チューブ



- 液体検知センサ技術
- 微粒子分散化技術
- 配合技術
- 薄膜化技術

販売中

開発中

現在

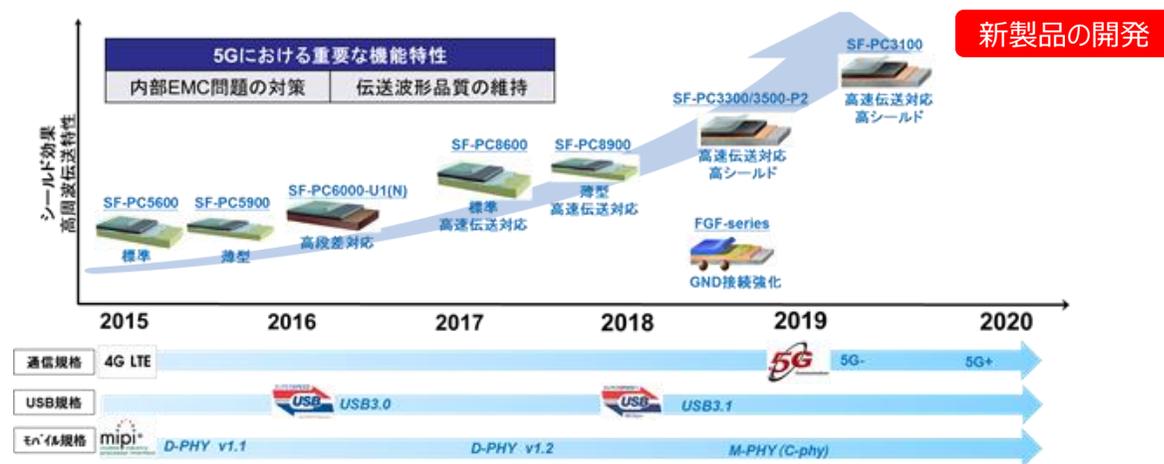
2022年

(参考) 5G通信対応高周波シールドフィルムの開発・上市

2020年から全世界で導入予定である「5G通信」に向けた高機能シールドフィルムの上市を本格化

2019年度から米国・中国などの一部の都市で開始され、2020年度からは日本でも本格導入が予定されている5G通信。データ通信速度はLTEと比較して、約100倍と言われています。この超高速通信である5Gでは、大容量のデータ通信、IoTの普及に伴う多数の端末との接続などが増加することで、電磁波ノイズ(EMC)の対策及びFPCの伝送特性対策が重要視されます。当社では従来から5G通信や高度化していく規格への対応に向けた高周波シールドフィルムの開発を行っており、現在、全世界の多数のお客様にて高周波シールドフィルムの評価を実施いただいている状況です。5G通信以降も、引き続き電磁波シールドフィルム材料のパイオニアとして、新製品の開発・上市を行い、世界シェアNO1の維持に向けて取り組んでまいります。

電磁波シールドフィルム ロードマップ



■ 評価技術

高機能シールドフィルムの開発には、樹脂・銅粉等の材料開発に加え、あらゆる電気特性に関する評価技術の向上が不可欠です。当社では、電磁波ノイズ対策を評価する「EMI評価技術」、伝送特性対策を評価する「SI評価技術」、これら2つを合わせた「シミュレーション技術」の観点で、いずれも業界の最先端技術を導入することで新製品開発に役立てております。

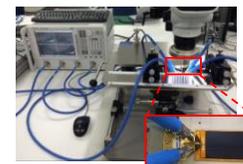
● EMI評価

シールドフィルム付FPCの放射電磁界測定



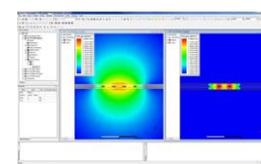
● SI評価

シールドフィルム付FPCの伝送性能の評価



● シミュレーション

シールド対策による効果をEMI・SI観点でシミュレーション



(参考) 眼科OCT向け光デバイスの高度集積化・事業拡大

*第96期中間期株主通信(2019年12月)
での紹介予定内容

高度な光ファイバ加工技術・光制御技術を用いた、眼科OCT（光干渉断層計）向け部材の事業拡大

世界的な高齢化の進行に伴い、高齢者に特徴的に見られる眼疾患（加齢黄斑変性、網膜静脈閉塞症、糖尿病網膜症等）の患者が増加してきております。これに対応し、眼科医向けの眼球内断層撮影機器である「OCT（Optical Coherence Tomography：光干渉断層計）」の需要が、グローバルに高まってきております。

当社は、光ファイバを精密に加工する技術に加え、光の特性を自在に調整する「光制御技術」を組み合わせた、高品質の「光ファイバカプラ」、「光ファイバコリメータ」、さらに、それらを複数組み合わせた「光モジュール」を、OCTを主用途として、製造・販売しております。世界的なOCT需要の伸びとともに、当社事業も着実に成長を続けております。

タツタの 強み

- ①加工技術：高度な溶融延伸技術により、OCTに最適な赤外波長域に対応した光ファイバカプラ・光ファイバコリメータを製造可能
- ②設計・アッセンブリ技術：OCTに必要な高精度の光路長設計とアッセンブリ技術により、繊細なカスタマイズが可能

◆光ファイバカプラ

直径0.25mm程度の極めて細い光ファイバに溶融延伸加工を施したものです。お客様の用いる光の波長等に合わせて、細かくカスタマイズしています。



◆光ファイバコリメータ

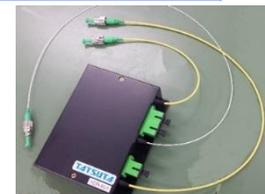
光ファイバからの出力された光をレンズを介して出射光を平行光線にする部材です。お客様の用途に合わせて平行光線のサイズをカスタマイズしています。



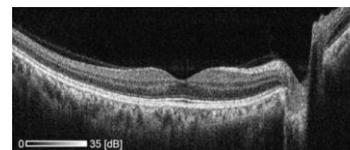
高品質部材と高精度設計・
アッセンブリ技術の融合

◆光モジュール

長年培ってきた光学技術とお客様のアプリケーションについての知識を融合することで、最適な特性の光モジュールを提案しています。



網膜断層画像



OCTにより、肉眼では検査不可能な眼球の奥の網膜の状況を映像で確認することができます。欧米では眼科医のほか眼鏡店にも普及が進んでおります。

新しい取り組み「ユニット化」：アクティブ部品を含めた一体設計・製造・販売

これまでの当社の光モジュールは、光ファイバカプラや光ファイバコリメータ等、受発光機能を持たない部品（パッシブ部品）で構成された製品でした。これに対し近年、お客様のアプリケーションに合わせ、光源や受光部品等のアクティブ部品と光モジュールを最適に組み合わせた「ユニット」の設計・製造・販売を開始。お客様においては「ユニット」単位で部品を取扱うことが可能になり、そのことにより、当社はおお客様のメンテナンス性の向上と製造工程の簡略化に貢献しております。

当社は、眼科OCT向けをはじめ、可視光から赤外光までの幅広い波長域に対応する光デバイスをラインナップし、当社製品は、産業計測機器、分析機器等の様々な分野で採用いただいております。今後さらなる成長が期待されます。